1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100270		
法人名	医療法人 善昭会		
事業所名	グループホーム菜の花関2		
所在地	大分県大分市大字佐賀関335番地		
自己評価作成日	平成27年10月25日	評価結果市町村受理日	平成28年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成27年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に、その人らしく、自然と共に、地域と共に掲げています。出来る限りその方の家庭生活と同じように、地域とも関わりを持って生活して頂けるように支援を行っています。グループホーム菜の花関2は、周囲を山と川に囲まれた情緒豊かな所にあります。四季折々の季節感を感じる事が出来、地域の行事にも積極的に参加しています。又昔見た覚えのある蛍鑑賞や花火大会、自然の中で色ずき始めたくだものの実り、紅葉散策もできます。職員さんとご入居者様が一つの家族となり、安心してゆったりした生活を送る事ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者一人一人のアセスメントが丁寧に継続的に取られ、職員の情報の共有、介護計画等に活かされている。
 ・職員の産休・育休や急な勤務交代にも、事業所・同一敷地内のディサービス・グループホームと協力し、働きやすい勤務環境を作っている。事業所間の関係は、利用者との馴染みの関係やより良い日常の支援に効果が得られている。
 ・リフト浴、エアマットなどの備品を整備し、食事を共有にするなどにより、共有の食事等、職員に負担なく、利用者が安全に生活する場として支援できる体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然と共に地域と共に重度化されても尊厳や権利を損なわず、その方らしいあり方を旨とした理念です。ホール等に掲示し送り時に理念の確認を行い、理念の基に何が有るのかを考えながら支援を行っている	母体法人の理念と共に、事業所独自に大項目3種を、それぞれ解りやすく具体的に表現した理念が作成されている。理念は、個別支援、地域連携に生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から、定期的に行事案内を頂いている。元気サロンの運動会に参加や地域の交通安全運動、地域の防災訓練、中学校へは、継続して雑巾やペットボトルのふた、手作り手芸品のプレゼントを届け交流を行っている。	地域の年間行事案内に、事業所行事も組み込まれている。利用者の特技の手芸、社会貢献のペットボトルの収集は、利用者の楽しみや生活意欲につながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われる行事や中学生の施設実習研修では理解しやすい言葉で事例説明を行っている。職員もレベルアップの為に研修を行い地域支援に活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所のサービス内容報告、リスク発生などの取り組みについて、写真をつけて報告を行っている。又外部評価の結果や自己評価も報告を行い、ご意見や質問、ご指示を頂いている	民生委員からの提案でミニ菜園作りを企画し、地域の人から土や資材が提供され、畑つくりの楽しみ、収穫の喜びに繋がっている。会議資料として、写真入りで事業所の状況報告が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに市の職員さんの参加がある。又研修に参加時や電話等により相談、報告、連絡を行い助言を頂き、日常的に交流をしている	大分市職員の運営推進会議への毎回の出席は得られていないが、介護保険の手続きなど、直接出向き、報告・連絡・相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	担当者が研修会を定期的開催し日常的に学んでいる。家庭と同じように日中は玄関は、施錠するようにしている。又、ペット柵も手すりとして利用する以外は、取り外している	身体拘束の内部研修を行っている。外部研修に参加した担当職員は、定例会でテキストを用いて伝達講習を行い、職員での共有に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	担当者が研修会を定期的開催し日常的に学び確認しながら取り組んでいる。又、研修会による報告を受け、内容を共有できるようにしている。言葉による行動制御も行わない介護をしています。		

事業者名:グループホーム菜の花関2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護マニュアルや研修報告により、日常的に学び確認しながら取り組んでいる。後見人制度を利用されている方もあり、つど連絡を取り活用させて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居のご案内や重要事項説明を行い、事業所の取り組みや対応出来るサービスを、時間をかけて丁寧にわかりやすく説明を行い理解、納得して頂ける対応をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何時でも話せる関係づくりをしている。入居者様ごとに担当職員を設け、窓口を1本化する事で訴えや相談しやすい環境にしている。苦情相談担当者を設け、対応できるようにしている。	面会時は、居室担当が対応し、利用者の状況報告や家族の要望を把握する取り組みが行われている。毎月、事業所便りをキーパーソン以外の家族にも送付し家族間での情報の共有やコミュニケーション手段の一つとして活用されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会を行い疑問や相談など話合っている。又連絡ノートでも反映し、勤務年数や一部職員の発言に偏らない、風通しの良い環境づくりをしている	利用者支援、事業所行事、職員の負担軽減の為の意見や要望を発言しやすい環境で、それらの意見や要望は管理者から母体法人へ届けられている。重度化対応のエアーマット・屋外会食用テーブル等備品調達に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭と仕事が両立できるように、公休希望日を取得しやすく働きやすい職場、チームケアを大切にしている。育児休業復職した職員や現在短縮勤務措置をりようしている職員もいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で開催される研修に、職員が参加しやすい環境を作り学んだ事は、全ての職員が実践指導を受け支援につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部より研修生を受け入れ、又外部へ研修に行く交換実習も行い支援の向上に向け取り組んでいる		

事業者名:グループホーム菜の花関2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者を中心に時間をかけ傾聴し、記録に残し利用者様を理解できる体制と関係作りに努めている。センター方式や研修で学んだシートを利用し入居後も不安が無いか伺っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前より、何度か面接と傾聴を場所を変えて行い、グループホームでのサービス内容の説明を行いつつ、ご家族のお困り内容も合わせて伺い出来る限りのご要望に沿える関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談内容によっては、可能な限り柔軟な対応を行い、必要と思われる事だけではなく、その時々により必要とされる事にも柔軟に対応し他のサービスも提案するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ありがとうございます」と感謝を伝えあい相身互いとお互いを労いながら、日常生活を共に支え合っている。又、そのような場面が多く持てる工夫も行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との時間を楽しんで頂けるように、手紙、電話、外泊などをお願いしている。又毎月菜の花だよりをご家族や希望される親族にも送付し、現状報告をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み店を継続して利用できるように、ご家族にもご協力いただいています。在宅生活と同じように、ヤクルト販売や馴染みの新聞を読む事が出来るようにも支援しています	利用者の生活歴に沿った馴染みの人や場を把握し、家族や友人、知人の協力のもと、外出支援や事業所内での交流に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	愛称の良い利用者さんでお話をする機会を作ったり、新聞の受け渡し、食事やおやつのお誘いの言葉かけなどを通じて関わり合える、支え合える関係づくりが保てる支援を行っています		

事業者名:グループホーム菜の花関2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の利用者さんが多く退所後もご家族の方と会う機会が多い、あいさつやお見舞いなどで経過を伺い場合によっては、再入居の申込みや在宅生活、ご家族の相談にも柔軟に応じています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にセンター方式の用紙を利用し生活歴から意向をくみ取り、困難な場合は、会話や表情、ご家族に伺いながら疑似的に意向を組み込み、把握に努めています	センター方式の書式は、詳細に記載され、毎年見直しを行い、新しい情報や知り得たことは、追記し、職員で共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴シートを作成し、都度見直しや傾聴などで変化があった場合は、あとがきとして記入を行い、日々把握できる出来るように、記録ノートにも記載し見逃さないようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々生活パターンを把握、出来る事を探しケアプランに反映し、日々のモニタリング、気づきノート等により、情報交換、現状のADLの確認と把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の個性を大切に、出来る事が一つでも増えるように、昔得意だった事や、好きな事、楽しい事を重視して、ケアカンファレンス以外でも、気づきノートを作り、意見を集約しケアプランに反映しています。	担当職員から得られた情報をもとに、ケアマネが作成している。利用者の居室に掲示し、家族・職員で共有し支援に活かしている。計画の見直し期間が解りやすいように、個人ファイルの帯に日付を添付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の書き方を工夫し、主観を入れずご本人の言葉を用いて、記入し職員間の情報を一元化し共有できるようにし、見直しや気づき、評価を行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や思いを、ご家族の意向等に配慮しつつ、急な外出、外食、外泊、受診等の付き添いなど、基本的に希望時には、すぐに対応できる柔軟な体制を取り対応している		

事業者名:グループホーム菜の花関2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議での情報交換、避難訓練、防災週間点検等で来訪して下さる、地域消防職員さんとの関わり、ご本人の馴染み店での買い物支援を行っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかるつけ医に、情報提供を行っている。通院には、職員又はご家族が同行し適切な医療が適切な時に受診出来るように、複数の医療機関と密に関係を結んでいる	利用開始前からの掛かりつけ医を継続受診している。受診の際には、日常の利用者の適切な情報提供をし、効果的な受診となるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する事業所に、看護職員やリハビリを行う職員がいるので、つど健康管理や医療面での相談助言の対応が出来、提供医療機関との連携も24時間体制を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時には、必ず、職員、又はご家族が同行し、ご本人の状態報告をしています。又必要に応じてご家族、関係者と情報交換を行い早期退院できるようなアプローチ、退院後の通院支援も行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針を用いて十分にご説明し、話し合いを行い、確認書を交わしている。主治医、職員にも、ご家族の今の思いや、経過中の気持ちの変化を伝え対応している	重度化、終末期支援に向け、職員間で計画的に知識や技術の学びが行われている。家族などの看取る側のグリーフケアについての支援にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している。又急変を想定したシュミレーションを時々行い即対応が出来るようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に職員が参加し、その様子をDVDで職員全員が確認を行い、避難経路や避難に要する時間を確認している。又地域住民が「お助け隊」として参加し、一斉連絡システムも構築されている	緊急時の一斉連絡システムには、地域役員、近隣住民も登録されている。災害時の地域の避難経路を検討し、利用者の体力や状況に応じた避難や支援について確認が行われている。	

事業者名:グループホーム菜の花関2

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには、特に尊厳とプライバシーを重視した配慮を行っている。研修報告などでも常に新しい情報を取り込んでいる	入浴介助や排便確認など、羞恥心やプライバシーを伴う支援時には、利用者の希望や他の利用者との関係を配慮した支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を重視し、認知症が重度になってもその方の過去のデータ等により、疑似的な表現方法を用いて支援を行っています			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の流れはあるが、基本的にお一人ごとの、その日のペースに合わせた支援を行っています			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院を継続利用できるように支援を行っています。入浴後は化粧水などの利用を勧め、不定期ですがGH内でも化粧を行っています			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付け、米とぎ、食器の片付けなどを、その方の能力に応じて楽しく出来るように役割分担でお願いしている。職員も同じテーブルで同じ物を食べ、家庭的な雰囲気作りもしています	食事は3食共隣接するサービスで作られている。献立の希望を伝え、後日実現している。毎月1日は赤飯を炊き、月の初めを皆で喜び、祝う行事が行われている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門の調理員が調理の献立を作成している。食事摂取量や水分摂取量は個別に記録している。おやつや時間、深夜、入浴後など、個人に合わせた支援を行っている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後口腔ケアの促しと支援を行い記録として残しています。異常や希望時には必要に応じて歯科医師に連絡し、対応しています。			

事業者名:グループホーム菜の花関2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表により、トイレ誘導を行っています。排泄パターンや表情、表現にも気をつけています。又夜間はポータブルトイレを利用されている方も日中はトイレ支援を行っています。	トイレの場所が解りやすいよう、大きく表示している。トイレ移動・動作・腹圧をかける生活リハビリに取り組んでいる。職員は、自身でポータブルトイレの汚物処理・洗浄をしている利用者をさりげなく支援し、保清を保っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は身体状態の悪化をきたしやすい為個別に乳製品や散歩活動を取り入れ出来る限り自然排便につなげた支援を行っています。が、場合によっては、服薬調整も行っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は(急変を考慮)好きな時間に入浴できるように支援しています。お一人一人の希望や心身の状態に応じて柔軟な対応をしています。リフト浴利用もできます。	週2~3回の入浴を基本に、嫌がる利用者には、順番や声掛けの工夫で、気持ちよく入浴できるよう支援に努めている。介護度の重度化に伴い、利用者や職員の負担にならないよう工夫し安全な入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、興味ある事を取り入れ活動を促し生活リズムを整えています。夜間不眠時には、温かい飲み物を提供したりお話を傾聴して不安にならないよう支援を行っていますが継続する場合は主治医に相談しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方箋をファイルしている。指示書は申し送り時に把握し複数の医療機関を受診されている方には、情報提供を行い共有と早期発見に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や残存能力を生かした支援を行っています。又お礼の言葉かけを必ず行い、自信と意欲が保てるように心がけ、行きたい所の外出支援は、出来る限り、すぐに対応しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通じて、外出やレクリエーションを計画しています。個別支援では、カラオケ、買い物、外食などの支援を行い、地域の歩こう会にも参加しています。	外出支援は、個別支援を基本としている。同一敷地内のデサービスやグループホームに出かけ、旧知の人と会話を楽しんだり、散歩中に職員に個別に思いを伝えることもある。恒例行事として花見やクリスマスイルミネーション見学などの集団外出支援も行われている。	

事業者名:グループホーム菜の花関2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で少額をお小遣いとして管理されている方や事業所でお預かりしている方もいます。移動販売車や地域の折り込み広告で買い物希望される場合は、同じ商品が購入できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	長期間来訪がないご家族には、状況に応じて、お伺いの電話をしています。毎月送付している菜の花だよりに代筆のお手紙を添えたり、写真を同封しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが集うホールスペースは、テレビを中心に配置し、皆さんの作品展示、季節感を取り入れた飾りや、仲の良い人、相性の良い人などを考慮したテーブル配置にしています。	利用者の笑顔や事業所行事の写真を掲示し、皆で楽しめるようにしている。共有トイレは利用者の心身の状況に合わせて備品や手すりなどを工夫し、安全に清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチ、椅子を各場所に配置し、気の合う人達だけの空間、少人数た時には、一人、気を使わずに過ごして頂けるように配慮した配置にしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年利用した馴染みの物、愛着品を持込んで頂く事や、家族写真を貼り、寂しい思いや孤独感が無いように工夫しています。冷蔵庫持込みの許可が出ている方は、居室で食事が出来る支援もしています	利用者の状況に合わせ、家族・職員と話し合い、生活備品を準備し、衣類等の収納を共有空間に置くことで、利用者の混乱を予防し、快適に過ごせる工夫が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には、残存機能を生かせる手すりや可動式入用更衣ベンチを設置しています。全介助の方にも安心安全に入浴が出来るよう、環境整備を含め支援しています。		